

第8回伊勢広域環境組合ごみ処理施設基本構想策定委員会 議事概要

【日時】平成30年7月25日（水） 13：45～15：10

【場所】三重県伊勢庁舎 4階 402会議室

【出席者】（敬称略）

＜委員＞（◎は委員長、○は副委員長）

- ◎深草 正博 皇學館大学 教育学部 特命教授
- 加藤 忠哉 三重大学 名誉教授
- 荒井 喜久雄 公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長
- 和氣 城太郎 三重県環境生活部 廃棄物対策局 RDF・広域処理推進監
- 坂本 進 伊勢市環境生活部長
- 古布 武 伊勢市環境生活部環境課長
- 出口 昌司 伊勢市環境生活部清掃課長
- 松井 友吾 明和町人権生活環境課長
- 西野 公啓 玉城町生活福祉課長
- 中西 章 度会町防災環境課長
- 中井 宏明 伊勢広域環境組合 事務局長

＜事務局＞

伊勢広域環境組合

＜コンサルタント＞

株式会社エックス都市研究所

【配布資料】

- 資料1-1 建設候補地選定における検討結果報告書
- 資料1-2 建設候補地選定における検討結果報告書 添付資料
- 資料1-3 ごみ処理施設整備基本構想（中間報告）について
- 資料1-4 ごみ処理施設整備基本構想（中間報告） 補足資料
- 資料2 ごみ処理施設整備基本構想（案）

1 開会

- 傍聴席16席を準備し、定員内の参加がある。
- 坂本委員が遅れて参加される。

2 前回議事概要の確認

- これまでは前回議事概要の確認を行っていたが、前回委員会は非公開であったため、前回委員会の議事概要は確認しない。

3 議事

(1) 建設候補地について

- 事務局より資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料1-4に基づきこれまでの選定手順を説明した。主な意見等は以下のとおり。

(委員) 資料1-2の中で、非公開とされたものも今後公開していく可能性があるのか。

(事務局) 公開情報のみを示したのが資料1-4である。それらの内容は基本構想(案)に記載されており、今後は基本構想(案)を公表していくということである。

(委員) 組合で非公開であっても、各市町には検討対象としたエリアがあり、その情報に関する公開請求があった場合の各市町の対応はどう考えるか。

(事務局) 組合からは公開しない。各市町で抽出したエリアに関する情報公開の判断は、各市町によると考えている。

(委員) 情報公開の判断は足並みを揃えるべきではないか。

(事務局) 情報公開の判断は、別途関係市町の会議で検討いただきたい。

(一同) 異議なし。

(2) 基本構想(案)

- 事務局より、資料2に基づき説明した。主な意見等は以下のとおり。

(委員) 第1章の基本構想の目的で、ごみ処理施設に関して、平成8年に供用開始としている一方で、建築物等は昭和50年から供用開始となっており、記載している順番に違和感を覚えたので、文章構成を再考いただきたい。

10ページの図2.2-1ごみ処理フローに“①へ”、“②へ”といった表示があるが、その意味が分からない。

(事務局) フロー図の説明を行った。

(委員) 説明で分かったが、一見分かりにくいので再検討されたい。

また、11ページの表2.3-1に「年間ごみ排出量」とあるが、住民は燃えるごみや缶・金属などで排出しており、何を指しているのかイメージできないのではないかと。13ページの表2.3-2も同様。「家庭ごみ」が何を指しているのか注釈

- を入れるなど、一考いただきたい。
- 合わせて19ページの表2.4-1中の“処理残さ”も何を指すのか分かりにくい。
- また、西暦と元号の統一は検討が必要ではないか。
- (事務局) 本基本構想では、将来も含め平成で統一し、括弧内に西暦を表記した。
- (委員) 98ページで三重県の計画を整理されているが、RDF事業については平成31年9月で終了するため、表Ⅲ-4からRDFに関する記述を削除されたい。
- また、今後パブリックコメントを実施することだが、一般の市民にはボリュームが多すぎる。概要版の作成を検討されてはどうか。
- (委員) 1ページと27ページで今後の整備の必要性を記載しているが、表現の整合性を確認したほうがよい。
- また、“その他プラ”と“容器包装プラ”など同じものを指す用語の統一を図られたい。
- (委員) 28ページの表3.3-1の施設区分については国の交付金メニューに合わせた区分であることを注釈で追加しておいた方がよい。
- (委員) 24ページの表3.1-6では圧縮梱包等の具体的な設備が出てくるが、それ以前のページでは施設別で整理されている。このことは何か意図があるのか。
- (事務局) 施設の中で個別機能の課題を強調したいと考え、整理した。
- (委員) 表現の整理をしないと分かりにくいと感じた。
- 次に、28ページの表3.3-1と44ページの表3.4-1は似ているが、意味合いは違ってくるので、表示方法は再考されたい。
- また、処理技術の動向で粗大ごみ等の処理方式が整理されているが、中身は粗大ごみ処理のみとなっており、リサイクル施設に関する情報は必要ないのか。
- (事務局) “等”とは“不燃ごみ”なのか“粗大ごみ”なのか表現を悩んだ結果の表現である。現状、不燃物も粗大ごみ処理施設で破碎・選別等の処理を行っている。内部でも同様の意見があったが、粗大ごみ等としている。
- リサイクル施設については、整備する際に方式の比較検討よりも工程を導入するかどうかの検討になるため、ここではリサイクル施設に関する整理は不要と考えている。
- (委員) 各市町で分別区分も異なっており表現が難しいと思うが、注釈を入れるなど、説明の工夫が必要と感じた。
- (委員) 先ほど意見のあった概要版を作る際には、現状の処理フローと将来の処理フローを対比すると市民に分かりやすいのではないか。
- (委員) 48ページの将来処理量の数値が、伊勢市のごみ処理基本計画と若干違うので、改めて確認されたい。47ページに記載されているような減量化施策を行った場合、可燃ごみが減る一方で、分別の促進によって資源物の増加なども見込まれるが、その点も含めた推計となっているのか構成市町と数字の刷り合わせをしたい。

また、50ページの粗大ごみ処理施設の規模算定の計算が合わない。
(事務局) 式②の誤記である。変動係数は÷(割る)ではなく×(かける)となる。
(委員長) これまでの意見を整理すると、市民に分かりやすいものとするための工夫、パブリックコメント用の概要版の作成が必要となる。
(委員) 一般市民には、次の施設では、単に燃やすのではなく、エネルギーを回収する施設になることを強調してはどうか。

(3) その他

- 今後の予定の確認

(事務局) 以前示してきたスケジュールでは第9回と第10回を開催する予定としていたが、第9回と第10回で予定していた内容をまとめて1回で開催したいと考えている。具体的な日程は11月22日の午後からとしたい。

4 閉会